



特別養子縁組に関する調査 サマリー

調査概要

- 調査方法 : WEB調査 (クローズ型 モニターサンプリング)
- 使用パネル : 株式会社クロス・マーケティング保有パネル
- 調査対象 : 18~69歳 男女
 - ※未既婚不問・職業不問・学生・フリーター・無職可
 - ※大学生・専門学生以上を想定 (高校生不可)
 - ※平成27年度国勢調査人口統計比ベースに近づけるよう回収を行う
- 調査地域 : 全国 (47都道府県)
- 回収サンプル数 : 本調査3,000名

■ 対象設計

(人)

	10-20代	30代	40代	50代	60代	計
男性	273	289	337	281	320	1500
女性	267	282	331	283	337	1500
計	540	571	668	564	657	3000

■ 実査期間 2020年3月13日 (金) ~3月15日 (日)

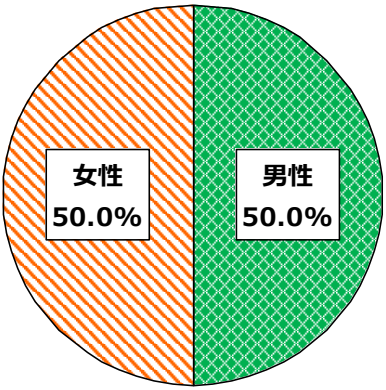
■ 調査実施機関 株式会社ワンド

対象設計（都道府県別）

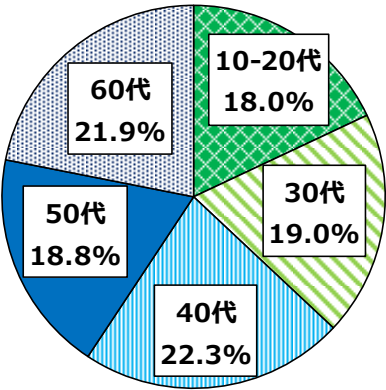
	男性						女性						計
	18～29歳	30代	40代	50代	60代	計	18～29歳	30代	40代	50代	60代	計	
北海道	10	11	13	12	15	61	11	11	14	13	17	66	127
青森県	2	3	3	3	4	15	2	3	3	3	4	15	30
岩手県	2	3	3	3	4	15	2	2	3	3	4	14	29
宮城県	5	5	6	5	6	27	5	5	6	5	6	27	54
秋田県	2	2	2	2	3	11	2	2	2	3	3	12	23
山形県	2	2	2	3	3	12	2	2	2	3	3	12	24
福島県	4	4	4	5	6	23	3	4	4	5	5	21	44
茨城県	6	7	8	7	8	36	6	6	7	7	8	34	70
栃木県	4	5	5	5	5	24	4	4	5	5	5	23	47
群馬県	4	4	5	5	5	23	4	4	5	4	5	22	45
埼玉県	17	17	22	16	18	90	16	16	20	16	19	87	177
千葉県	14	14	18	14	16	76	13	14	17	13	17	74	150
東京都	35	38	41	30	29	173	34	36	39	29	29	167	340
神奈川県	22	23	28	21	21	115	20	21	26	20	22	109	224
新潟県	4	5	6	5	7	27	4	5	5	5	7	26	53
富山県	2	2	3	2	3	12	2	2	3	2	3	12	24
石川県	2	2	3	2	3	12	2	2	3	2	3	12	24
福井県	2	2	2	2	2	10	2	2	2	2	2	10	20
山梨県	2	2	2	2	2	10	2	2	2	2	2	10	20
長野県	4	4	5	5	5	23	4	4	5	5	6	24	47
岐阜県	4	4	5	5	5	23	4	4	5	5	6	24	47
静岡県	7	8	10	8	10	43	7	8	9	8	10	42	85
愛知県	18	19	22	16	17	92	17	17	20	16	18	88	180
三重県	4	4	5	4	4	21	4	4	5	4	5	22	43
滋賀県	3	3	4	3	3	16	3	3	4	3	4	17	33
京都府	6	5	7	5	6	29	6	6	7	5	7	31	60
大阪府	20	19	25	18	21	103	20	20	25	19	23	107	210
兵庫県	11	12	14	12	14	63	11	12	15	13	15	66	129
奈良県	3	3	3	3	4	16	3	3	4	3	4	17	33
和歌山県	2	2	2	2	3	11	2	2	2	2	3	11	22
鳥取県	1	1	1	1	2	6	1	1	1	1	2	6	12
島根県	1	2	2	2	2	9	1	1	2	2	2	8	17
岡山県	4	4	4	4	5	21	4	4	5	4	5	22	43
広島県	6	6	7	6	7	32	6	6	7	6	8	33	65
山口県	3	3	3	3	4	16	2	3	3	3	4	15	31
徳島県	2	2	2	2	2	10	2	2	2	2	2	10	20
香川県	2	2	2	2	3	11	2	2	2	2	3	11	22
愛媛県	2	3	3	3	4	15	2	3	3	3	4	15	30
高知県	1	2	2	2	2	9	1	2	2	2	2	9	18
福岡県	11	11	12	11	13	58	11	12	13	11	14	61	119
佐賀県	2	2	2	2	2	10	2	2	2	2	2	10	20
長崎県	2	3	3	3	4	15	2	3	3	3	4	15	30
熊本県	3	4	4	4	5	20	4	4	4	4	5	21	41
大分県	2	2	3	2	3	12	2	2	3	3	4	14	26
宮崎県	2	2	2	2	3	11	2	2	2	3	3	12	23
鹿児島県	3	3	3	4	4	17	3	3	4	4	5	19	36
沖縄県	3	3	4	3	3	16	3	4	4	3	3	17	33
計	273	289	337	281	320	1,500	267	282	331	283	337	1,500	3,000

回答者プロフィール

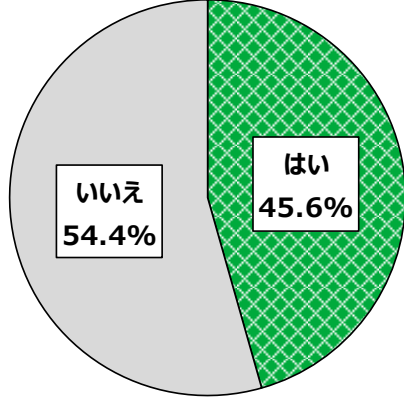
性別 (n=3000)



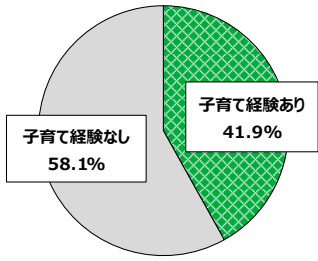
年代 (n=3000)



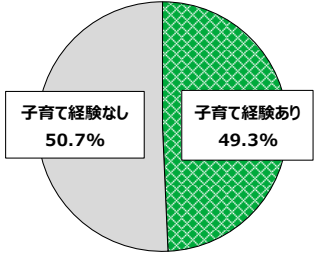
子育て経験有無 (n=3000)



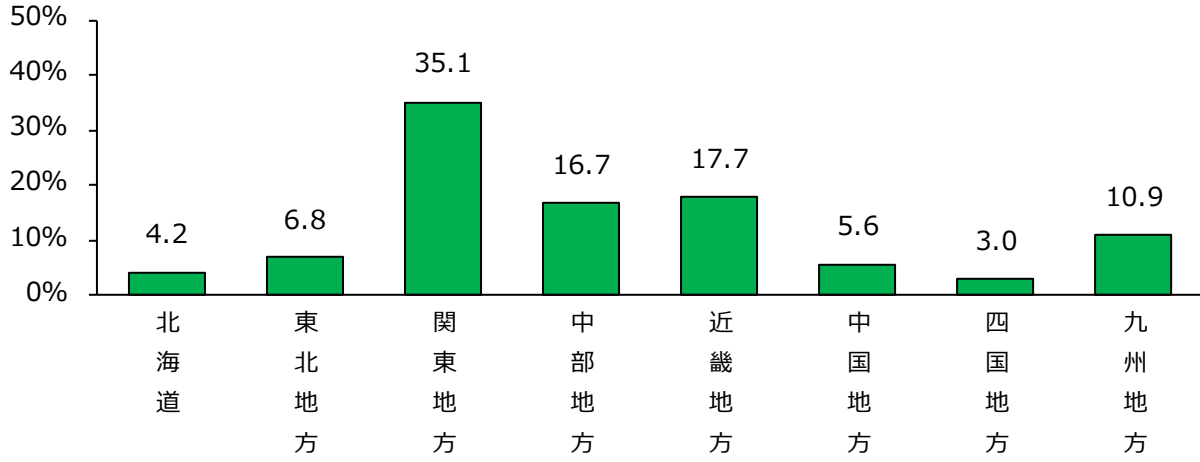
男性 (n=1500)



女性 (n=1500)



居住地 (n=3000)



調査結果 要約

特別養子縁組制度 内容認知率32.8%

- 「特別養子縁組制度」について、「内容を良く知っている」は7.0%。「内容をある程度は知っている」を含めると、認知率は32.8%であった。
- 「名前を聞いたことがある程度」は49.2%にのぼり、それを含めると名前を知っている割合は82.0%。
- 男女で差が見られ、内容認知率は男性28.5%、女性37.1%で、女性の方が認知率が高い。
- 子育て経験の有無でも差があり、経験有り層は内容認知率41.6%であるのに対し、子育て経験無し層は25.4%にとどまった。
- 年代別で見ると、10-20代が最も低く27.6%、60代が最も高く37.6%。
- エリア別に見ると、関東・近畿・中国・九州地方では内容認知率は3割を超え、他の地方は2割台後半。

特別養子縁組制度 改正民法の施行 認知率17.0%

- 「特別養子縁組制度」を知っている・聞いたことがある程度という人に対して、改正民法の施行の認知を確認したところ、「内容まで詳しく知っている」は3.4%。「改正自体は知っている」を含め、認知率は17.0%にとどまった。
- 男女で認知率の差が見られ、男性20.7%、女性13.7%で、男性の方が認知率が高い。
- 子育て経験の有無では大きな差は見られず、経験有り層は18.6%、子育て経験無し層は15.3%。
- 年代別で見ると、10-20代・30代が認知率が高く、2割以上。

認知経路 「TV番組」57.5%

- 特別養子縁組制度をどのように知ったか？という質問では、「TV番組（ドキュメンタリー・ニュース・ドラマなど）」と回答した人が57.5%と最も多く、他を大きく引き離す。
- 次いで、「新聞や雑誌、本」22.2%、「インターネット（ホームページ・SNSなど）」15.3%、「家族や知人・友人から」11.5%と続く。
- 性別・年代を問わず「TV番組」が最も高いが、女性30～50代は6割台後半と特に高い。

「特別養子縁組」「普通養子縁組」の違い 認知率14.1%

- 「特別養子縁組」と「普通養子縁組」の違いを知っている人は、全体の14.1%にとどまった。
- 子育て経験有り層は認知率17.8%、子育て経験無し層は認知率10.9%と子育て経験別で差は見られたが、子育て経験有り層でも2割にとどまる。
- 年代別で見ると、10-20代が最も認知率が低く10.7%。
- エリア別で見ると、近畿地方での認知率は16.8%と他のエリアに比べやや高め。

「特別養子縁組」「里親」の違い 認知率19.1%

- 「特別養子縁組」と「里親」の違いを知っている人は、全体の19.1%。
- 子育て経験有り層は25.9%、子育て経験無し層は13.3%と子育て経験別で認知率に差が見られた。
- 年代別で見ると、10-20代が最も認知率が低く12.6%、60代が26.6%と年代が高いほど認知率が高い傾向が見られた。
- エリア別では、北海道での認知率は12.6%と他のエリアに比べ低い。

特別養子縁組にどのような印象を持っているか？ 「どちらともいえない」68.4%

- 特別養子縁組についてどのような印象を持っているか？という質問については、「どちらともいえない」が最も多く、7割近くを占める。ポジティブ回答（よい・どちらかといえばよい計）は25.4%、ネガティブ回答（悪い・どちらかといえば悪い計）が6.2%となった。
- 男女で印象の差があり、ポジティブ回答で見ると、男性19.8%、女性30.9%と、女性の方がポジティブな印象が高い。
- 子育て経験の有無でも差が見られ、経験有り層のポジティブ回答が29.6%であるのに対し、子育て経験無し層は21.8%。

印象の理由 「よく知らないから」43.8%

- 特別養子縁組の印象はどのような理由からか？という質問では、全体で「よく知らないから」が43.8%と最も多い。特に、子育て経験無し層の男性の過半数は「よく知らないから」と回答。子育て経験有りの女性は、「生みの親が何らかの理由で子どもを育てられない場合に必要な制度だから」「子どもを迎えたい夫婦にとって良い制度だから」がそれぞれ3割以上と他の属性に比べて多い。
- ポジティブ回答層（よい・どちらかといえばよい計）では、「子どもを迎えたい夫婦にとって良い制度だから」56.5%、「生みの親が何らかの理由で子どもを育てられない場合に必要な制度だから」52.3%、「子どもが家庭で育つために必要な制度だから」43.4%が上位にあがる。
- ネガティブ回答層（悪い・どちらかといえば悪い計）では、「子どもがつらい、かわいそうなイメージがあるから」25.1%、「生みの親が育てるべきだと思うから」24.1%、「暗い印象があるから」22.5%が上位の理由。

特別養子縁組 「必要だと思う」 85.0%

- 特別養子縁組制度についての説明を呈示した後、特別養子縁組制度は必要な制度だと思うか？かと確認したところ、85.0%が「必要だと思う」と回答。
- 男女とも8割を超えているが、女性は88.4%と9割近くが必要と回答した。

特別養子縁組を必要だと思う理由

「生みの親が子どもを育てられない場合に必要な制度だから」 56.3%

- 特別養子縁組を「必要だと思う」と回答した理由は、「生みの親が子どもを育てられない場合に必要な制度だから」が56.3%で最多。次いで、「子育てをしたい夫婦の選択肢のひとつであってよいと思うから」54.4%、「虐待されている（虐待される恐れのある）子どもが救えそうだから」51.0%と続く。
- 男女別で見ると、女性は「子育てをしたい夫婦の選択肢のひとつであってよいと思うから」が最も高く、60.9%。
- 年代で見ると、60代は「子どもは施設で育つより家庭で育つ方がよいと思うから」が50.2%で、他の属性より高い。

特別養子縁組を必要ではないと思う理由

「養親が子どもにとって本当に良い人かは分からないから」 30.1%

- 特別養子縁組を「必要ではないと思う」と回答した理由は、「養親が子どもにとって本当に良い人かは分からないから」が30.1%で最多。その他、「生みの親が育てられるよう、もっと社会がサポートすべきだから」23.4%、「子どもが生みの親との関係が切れてしまうのはよくないから」22.0%が上位にあがる。
- 子育て経験がある女性では「生みの親が育てられるよう、もっと社会がサポートすべきだから」が最も高く29.9%。一方、子育て経験のない女性は、「養親が子どもにとって本当に良い人かは分からないから」が38.3%で最多となる。

特別養子縁組の利用 「考えたことがある」15.7%

- 特別養子縁組制度を利用して「養親」になることを考えたことがあるか？という質問では、「考えたことがある」が、特別養子縁組制度の認知者のうち15.7%となった。
- 年代で大きく差が見られ、10代～40代は2割以上が考えたことがあるのに対し、50代・60代は1割弱となる。
- エリア別では、東北地方と中部地方で2割台となっており、他の地方に比べて高め。

どうしても育てられない場合の利用意向 「利用したい」10.2%

- 自分や身近な人が何らかの理由でどうしても子どもを育てられない場合、特別養子縁組制度を利用してみたいか？という質問では、「わからない」が57.6%と過半数を占めた。「利用したい」は10.2%、「利用したくない」は32.3%となり、「利用したくない」方が多い結果となった。
- 男性はいずれの年代も利用意向が1割弱であった。女性は若い年代ほど利用意向が高い傾向が見られ、女性10-20代は「利用したい」が17.6%。

普及するために必要なこと

「特別養子を当たり前を受け入れる社会づくり」47.1%

- 普及のために必要なことを確認したところ、「特別養子を当たり前を受け入れる社会づくり」47.1%、「特別養子縁組について知る機会の増加」46.9%、「子どもを託したい人が相談できる機会を増やす」46.4%、「養親になりたい人が養親になりやすくする（経済的負担の軽減など）」43.2%といずれも4割台で分散した。
- 「特別養子を当たり前を受け入れる社会づくり」「特別養子縁組について知る機会の増加」については、女性がそれぞれ約5割と、男性に比べてやや高め。

養子の日（4月4日） 認知率3.0%

- 「養子の日」を知っているのは全体の3.0%。
- 子育て経験で差が見られ、経験有り層は4.3%、子育て経験無し層は1.9%。子育て経験がある男性は特に高く、6.7%。

◆ 特別養子縁組制度について

「特別養子縁組制度」の認知率は32.8%。

「特別養子縁組」と「普通養子縁組」の違いを理解しているのは14.1%、「里親」と「特別養子縁組」の違いを理解している人は19.1%にとどまった。

「特別養子縁組制度」の印象は「どちらともいえない」という回答が最多。その理由の多くが「よく知らないから」と、制度を理解していないという理由であった。「どちらともいえない」以外では、ポジティブな印象を持つ人が25.4%と、ネガティブな印象を持つ人（6.2%）を上回る。また、特別養子縁組制度について、85.0%は「必要な制度だと思う」と回答し、概ね社会にとって必要であり良い制度であるという印象は持たれている。

しかし、利用意向を確認したところ、利用意向は10.2%にとどまり、非利用意向32.3%を下回る結果となる。また、利用意向について「わからない」という回答が過半数を占めた。

漠然とポジティブな印象は持たれているものの、制度の内容が理解されていないことが、利用意向につながらない原因と思われる。

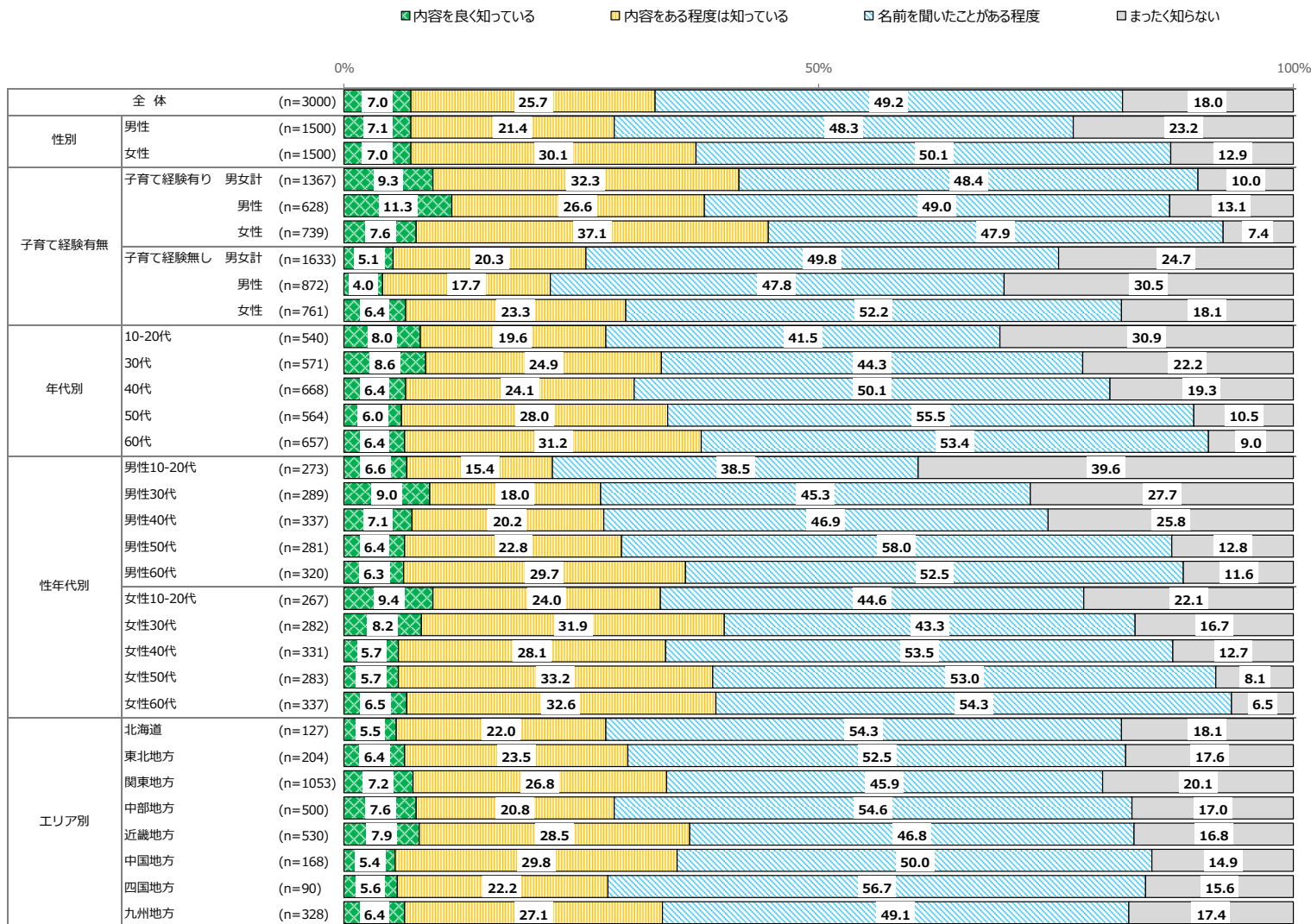
◆ 日本財団の活動について

養子の日の認知はわずか3.0%（前回調査2016年3月 2.3%）、前回調査と比較しても認知率の伸びは見られない。

調査結果 詳細

特別養子縁組制度 認知

Q 1 特別養子縁組を知っていますか？

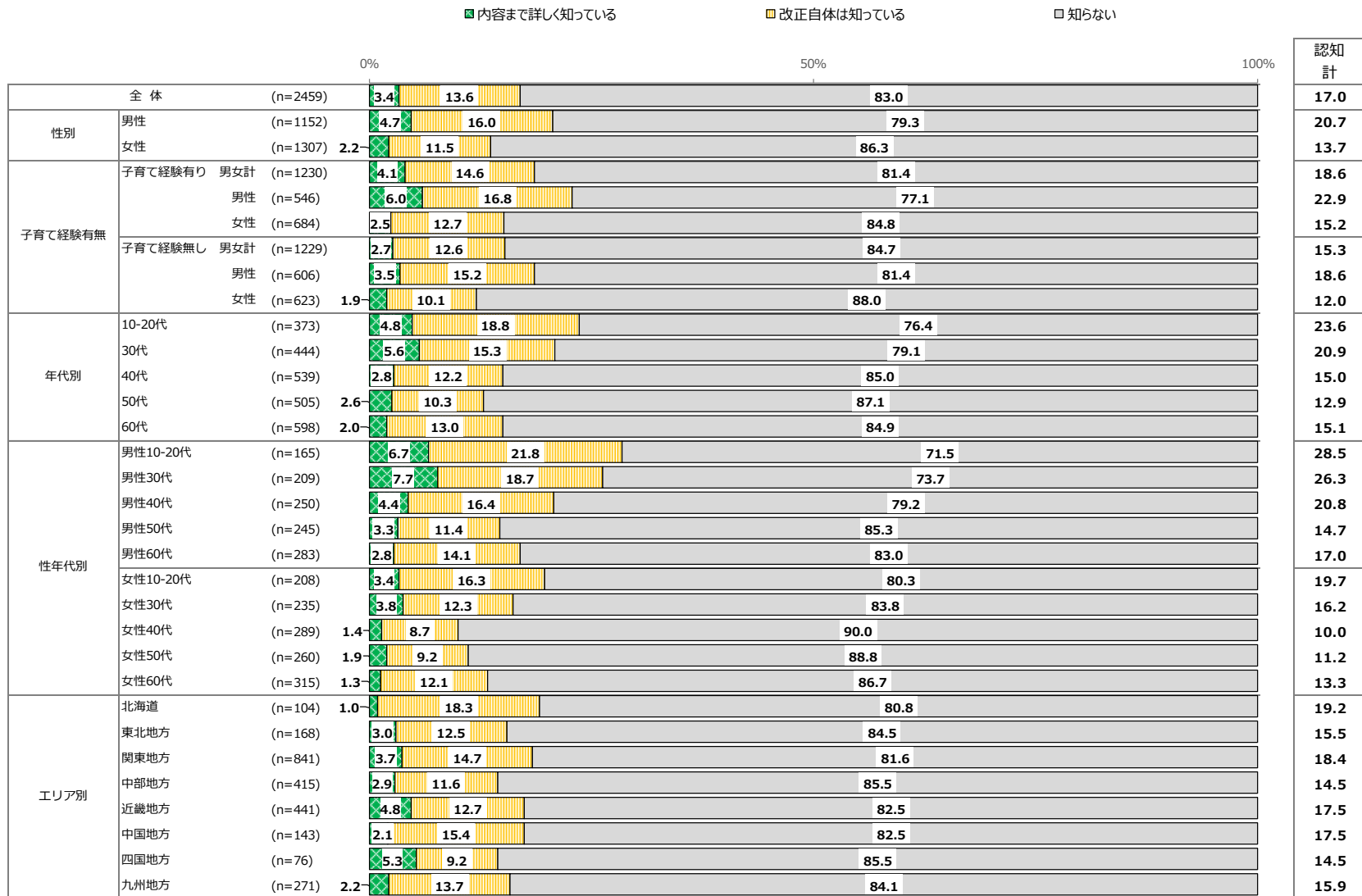


属性	内容認知計 (%)	名称認知計 (%)
全体	32.8	82.0
性別	28.5	76.8
性別	37.1	87.1
子育て経験有無	41.6	90.0
子育て経験有無	37.9	86.9
子育て経験有無	44.7	92.6
子育て経験有無	25.4	75.3
子育て経験有無	21.7	69.5
子育て経験有無	29.7	81.9
年代別	27.6	69.1
年代別	33.5	77.8
年代別	30.5	80.7
年代別	34.0	89.5
年代別	37.6	91.0
性年代別	22.0	60.4
性年代別	27.0	72.3
性年代別	27.3	74.2
性年代別	29.2	87.2
性年代別	35.9	88.4
性年代別	33.3	77.9
性年代別	40.1	83.3
性年代別	33.8	87.3
性年代別	38.9	91.9
性年代別	39.2	93.5
エリア別	27.6	81.9
エリア別	29.9	82.4
エリア別	34.0	79.9
エリア別	28.4	83.0
エリア別	36.4	83.2
エリア別	35.1	85.1
エリア別	27.8	84.4
エリア別	33.5	82.6

特別養子縁組制度 改正民法の施行 認知

Q2 2019年6月に特別養子縁組の民法改正法案が成立、2020年4月から施行されることを知っていますか？

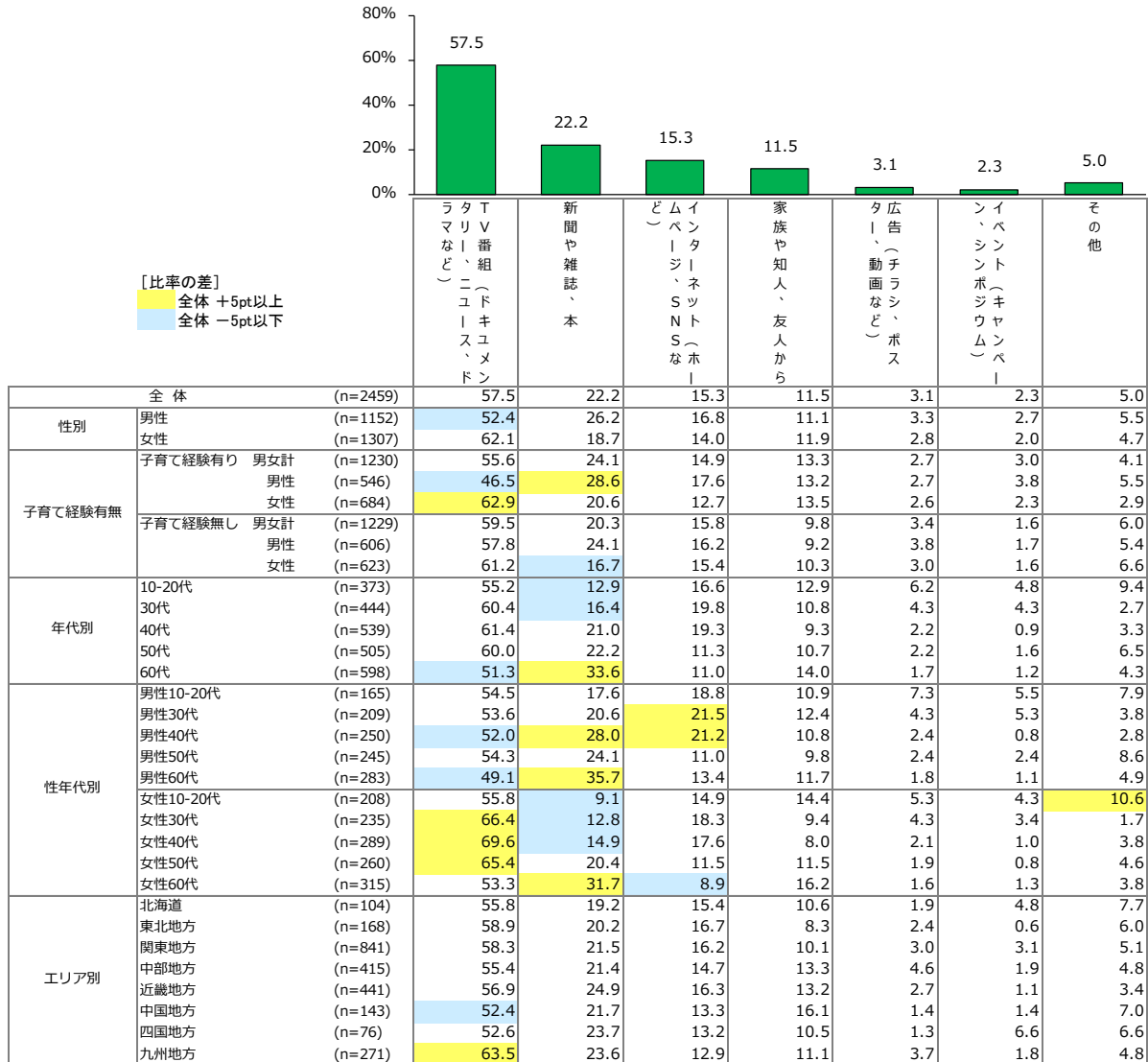
※Q1で「内容を良く知っている」～「名前を聞いたことがある程度」選択者が回答



特別養子縁組制度 認知経路

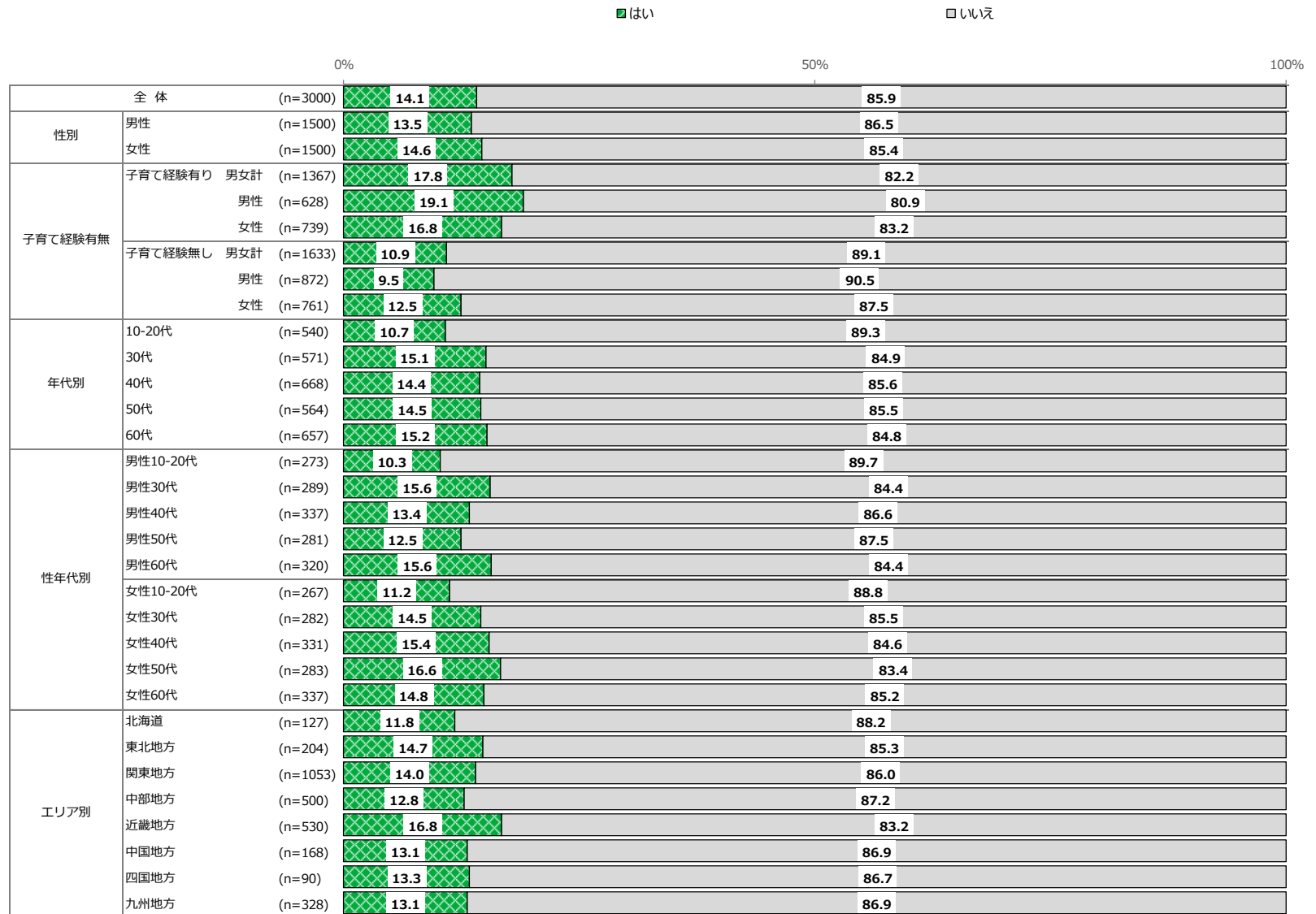
Q3 特別養子縁組についてどのように知りましたか？

※Q1で「内容を良く知っている」～「名前を聞いたことがある程度」選択者が回答



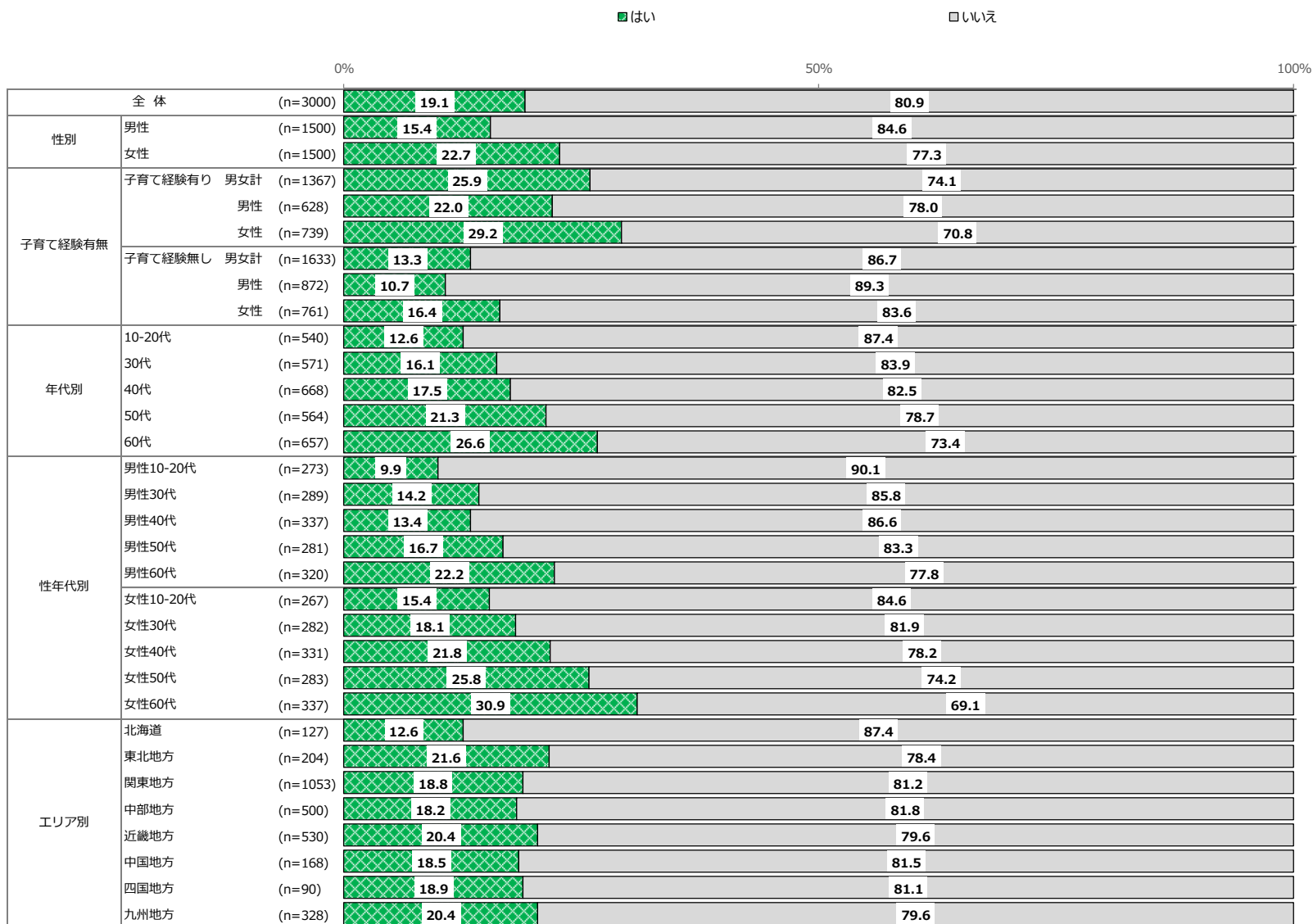
特別養子縁組と普通養子縁組の違いについて

Q 4 特別養子縁組と普通養子縁組の違いを知っていますか？



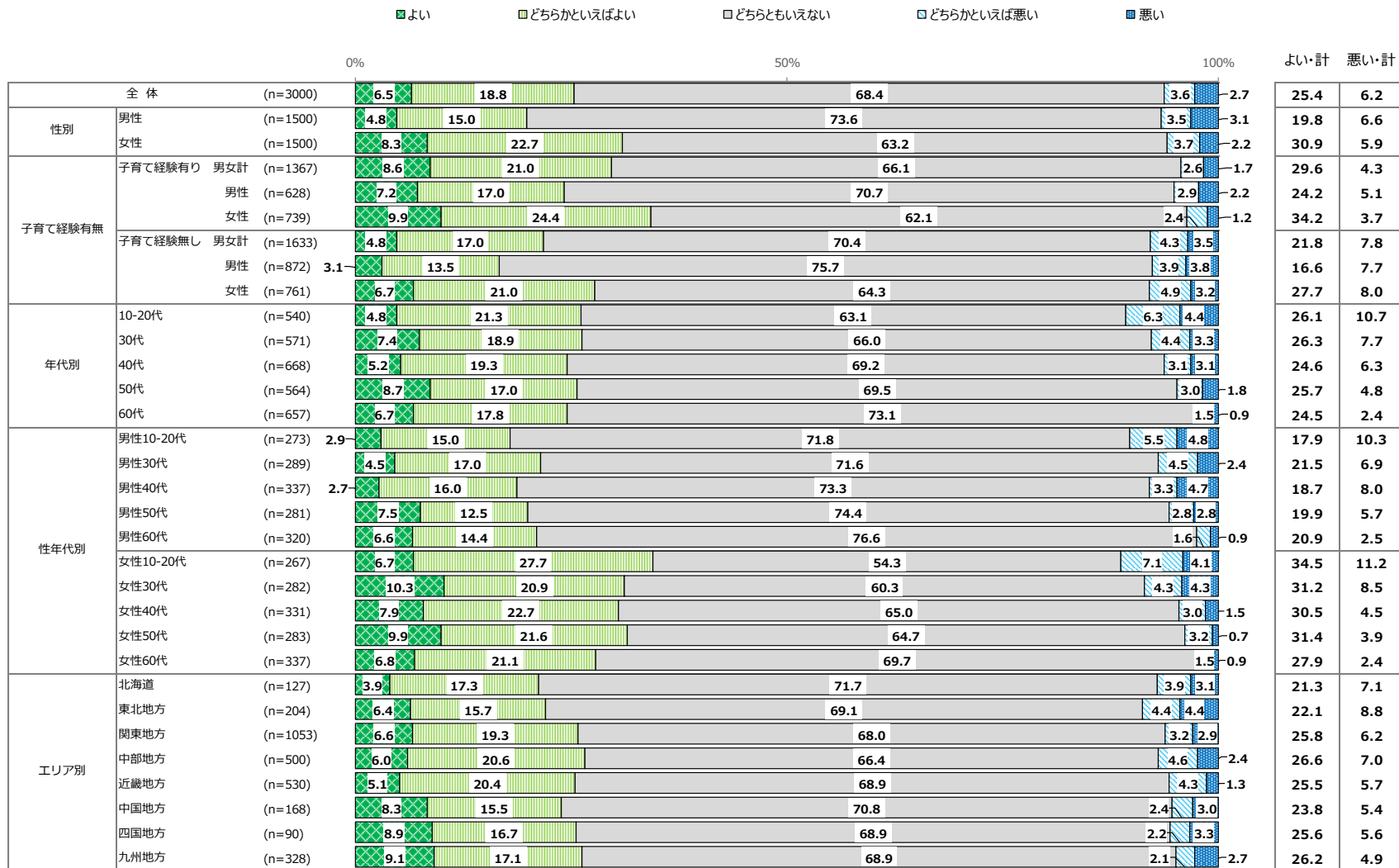
里親と(特別)養子縁組の違いについて

Q5 里親と(特別)養子縁組の違いを知っていますか？



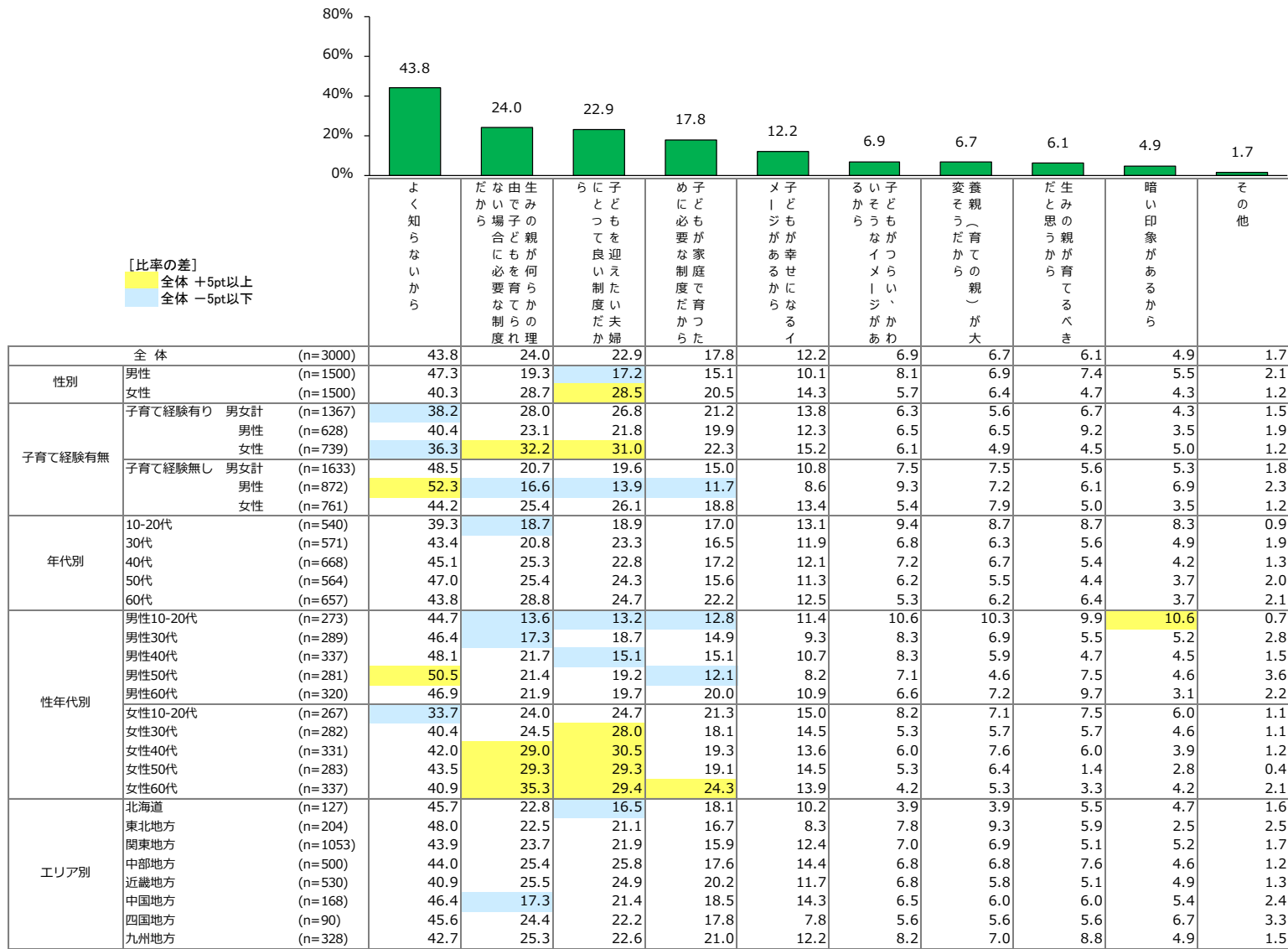
特別養子縁組の印象

Q 6 特別養子縁組についてどのような印象をお持ちですか？



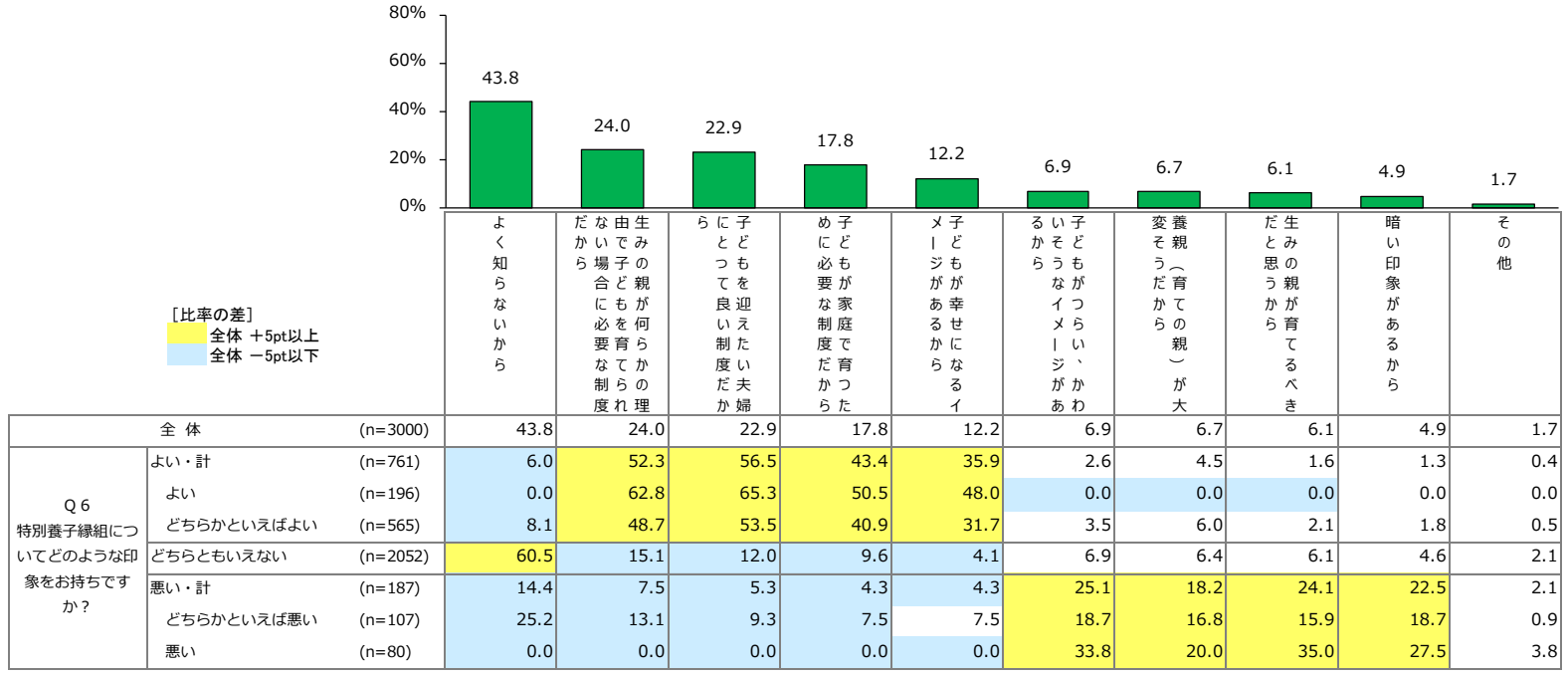
特別養子縁組印象の理由

Q7 前問でご回答いただいた特別養子縁組の印象はどのような理由からですか？



特別養子縁組印象の理由

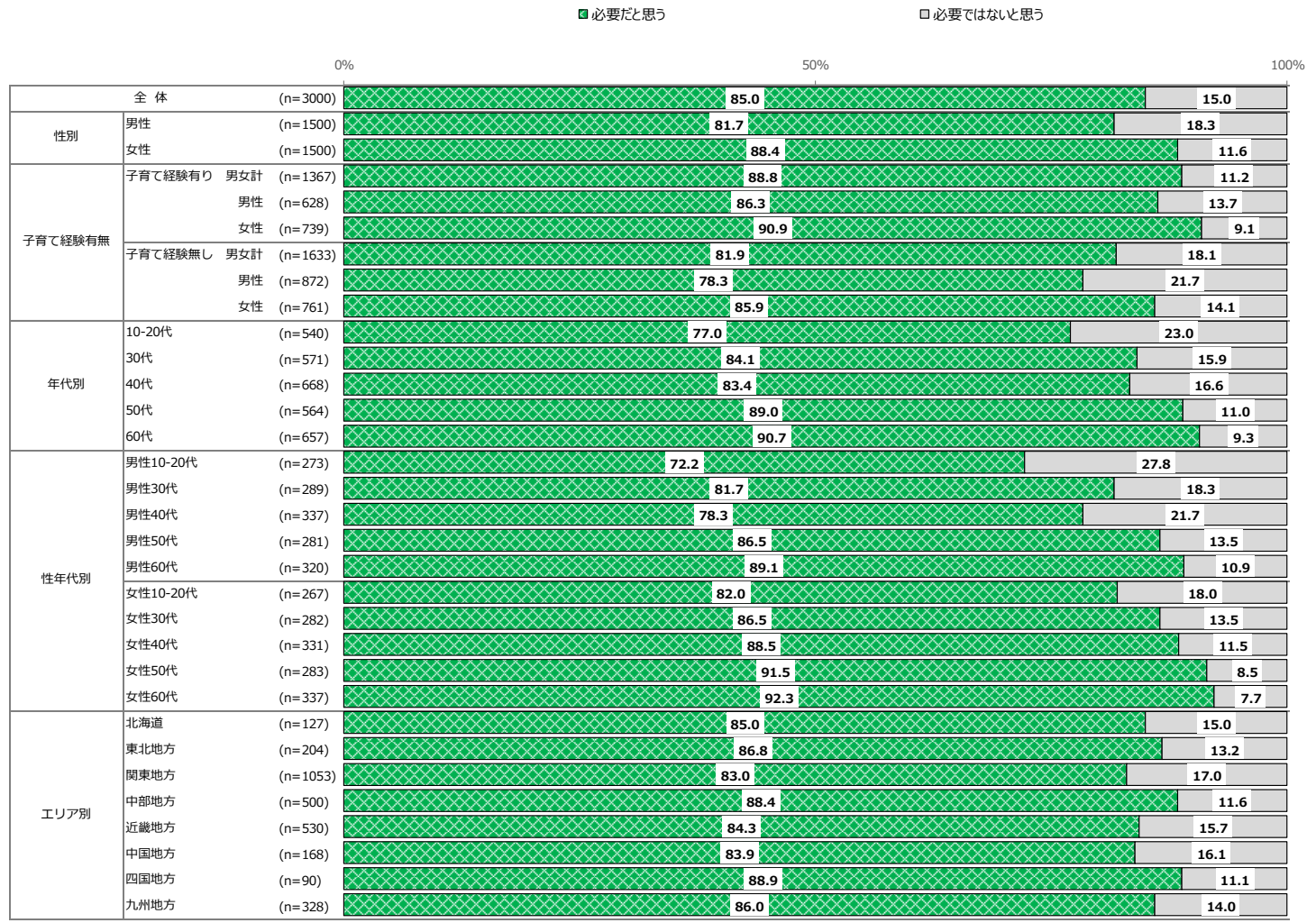
Q7 前問でご回答いただいた特別養子縁組の印象はどのような理由からですか？



特別養子縁組制度 必要性

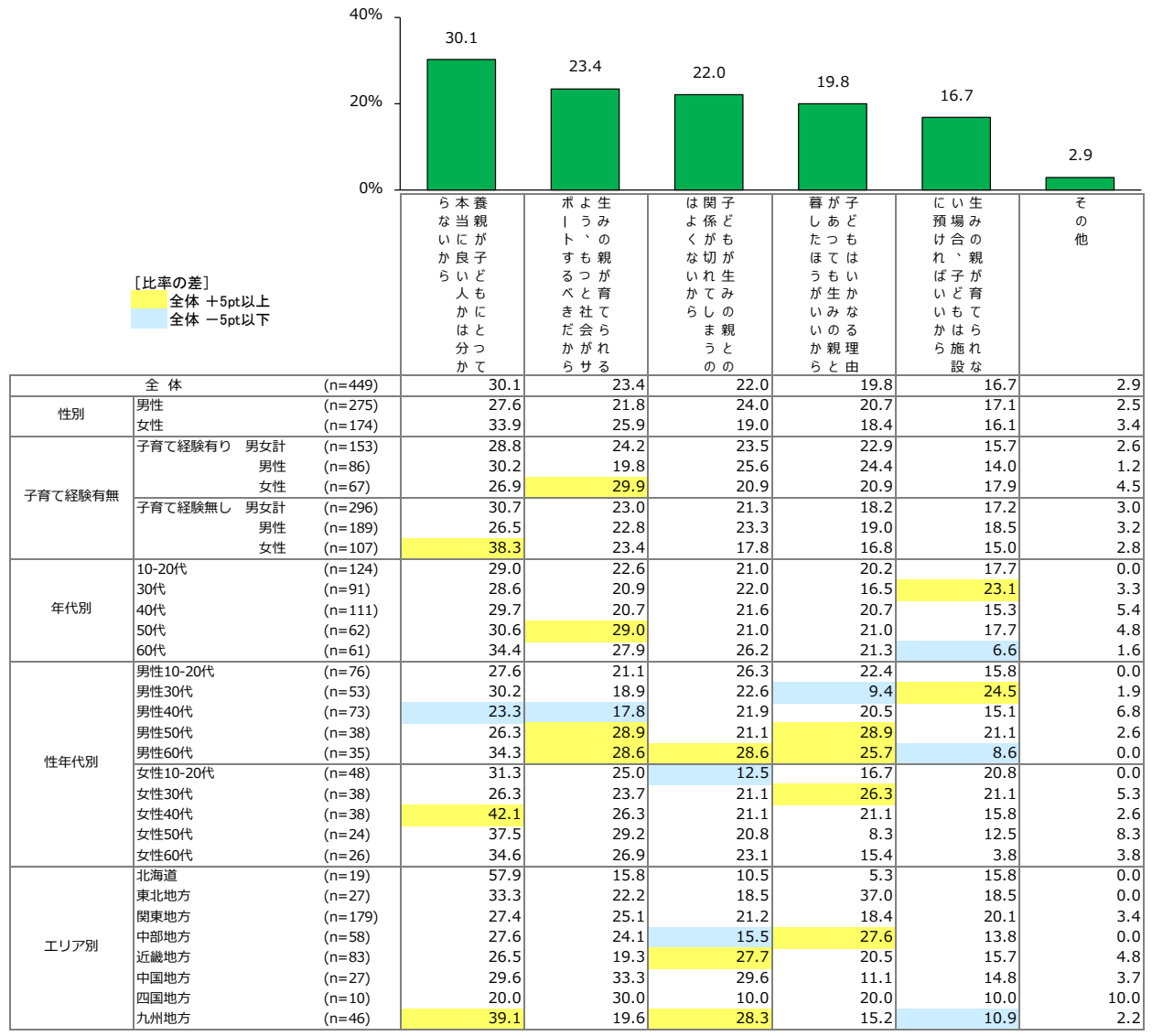
Q 8 特別養子縁組制度は、必要な制度だと思いますか？

「特別養子縁組制度」とは？
 実の親(生みの親)と子どもが親子関係を解消して、新たに養親になることを望むご夫婦と親子関係(養親と養子)を結ぶ制度です。
 実親(生みの親)が子どもを育てられない背景には、思いがけない妊娠、虐待、経済的困窮など様々な事情があります。



特別養子縁組制度 必要ではないと思う理由

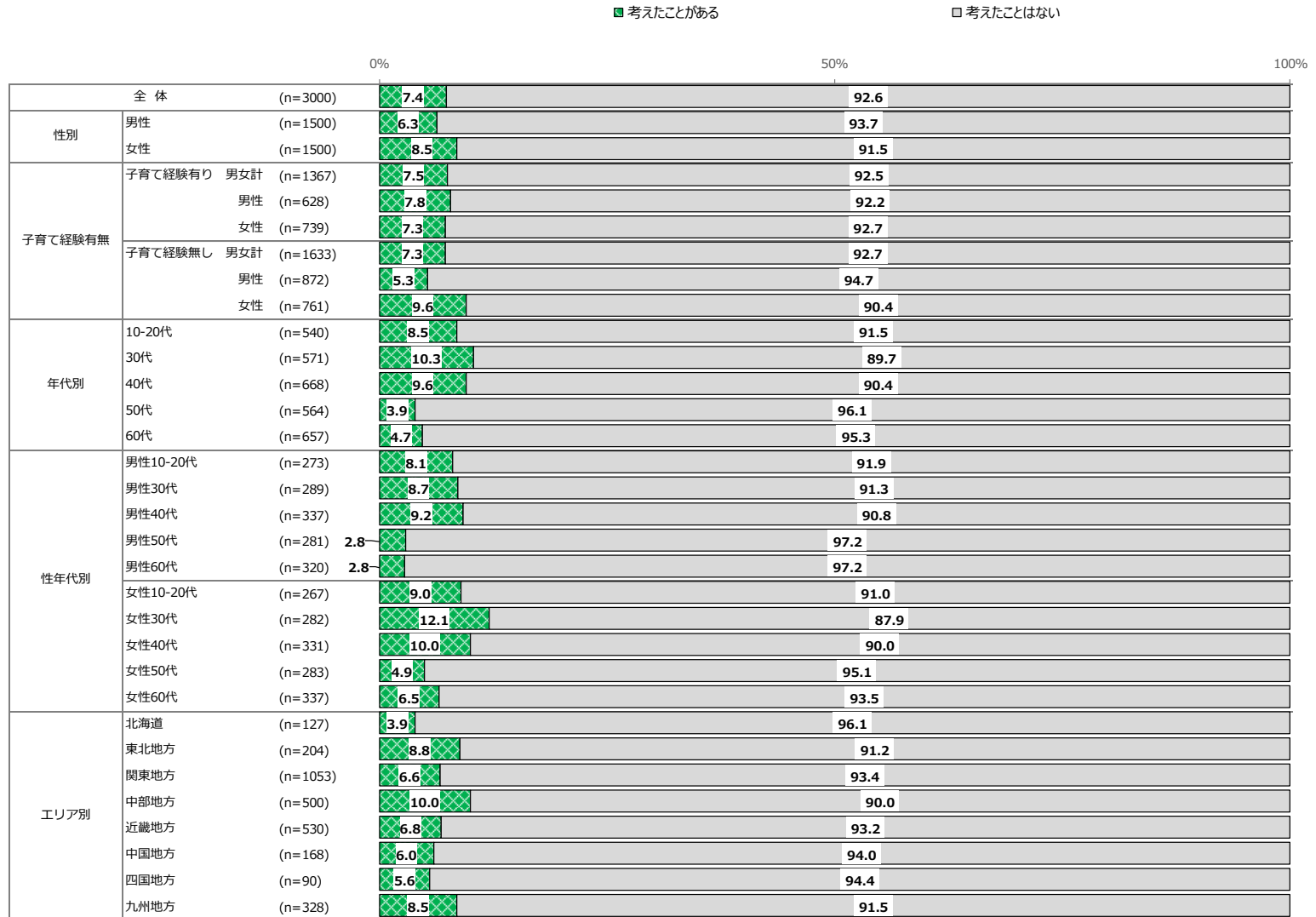
Q9__2 前問で特別養子縁組制度を「必要ではないと思う」と回答した方へお聞きします。必要ではないと思う理由は何ですか？



特別養子縁組制度 利用を考えたことがあるか

Q10 特別養子縁組制度を利用して「養親（育ての親）」になることを考えたことはありますか？

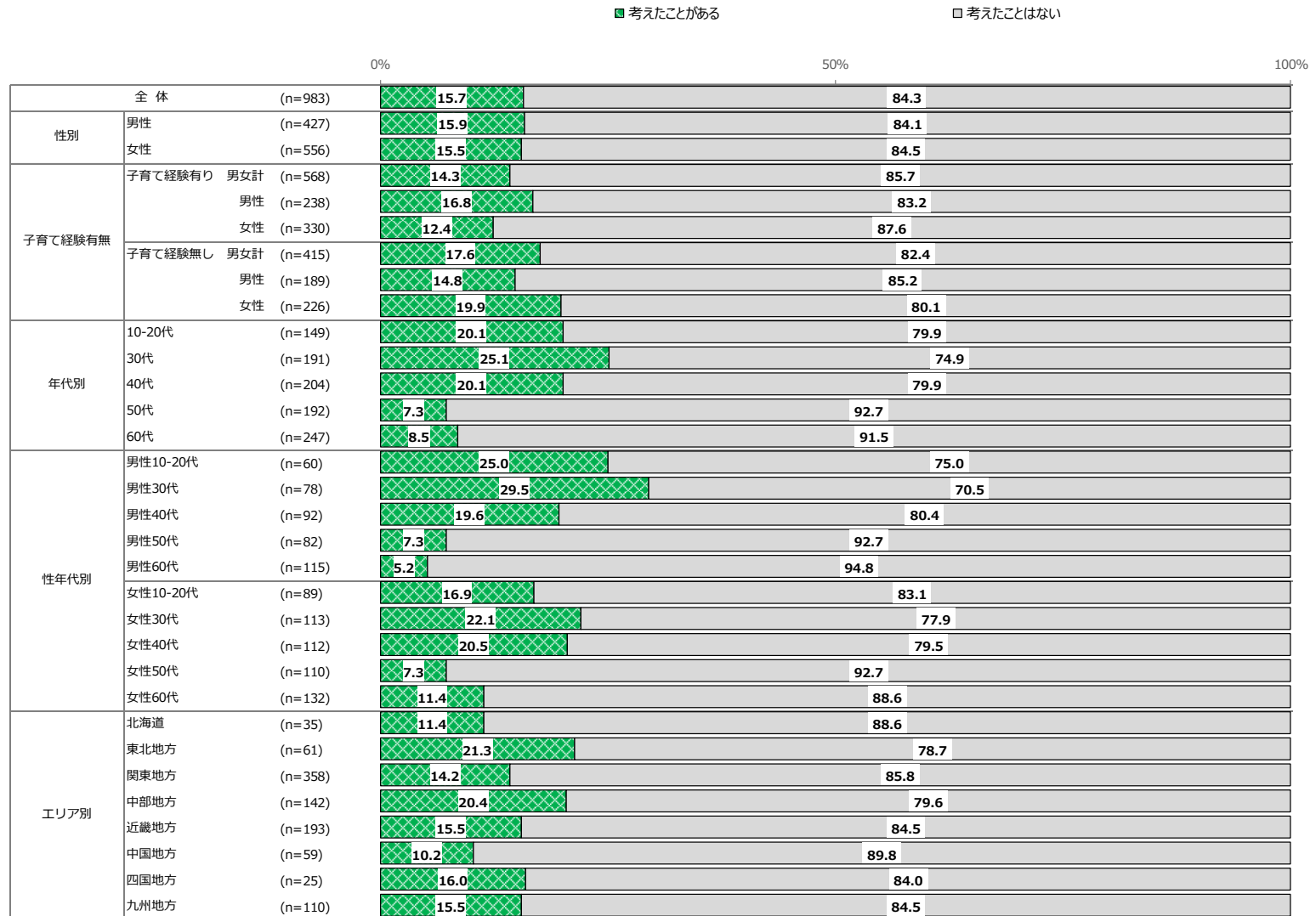
【全回答者ベース】



特別養子縁組制度 利用を考えたことがあるか

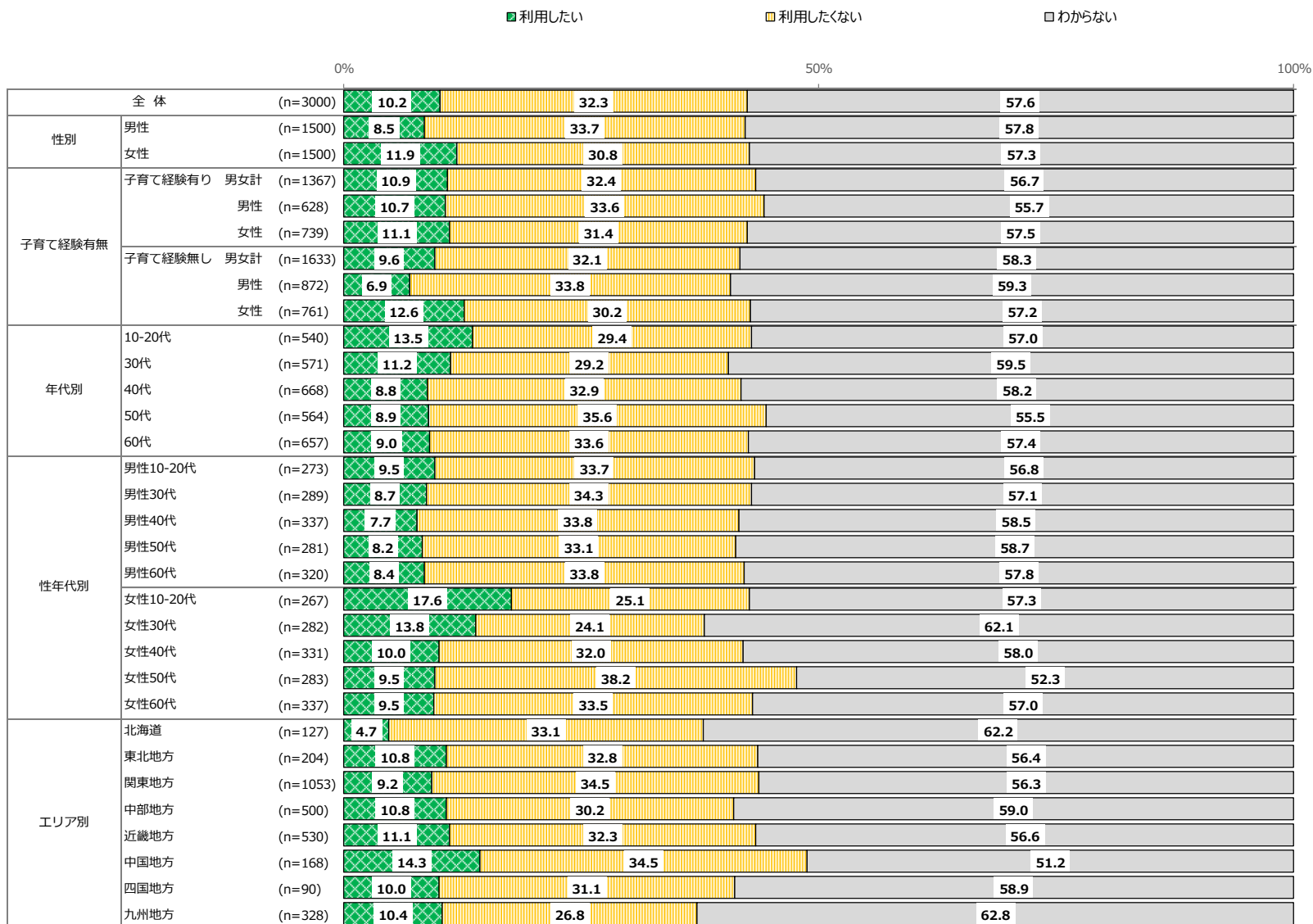
Q10 特別養子縁組制度を利用して「養親（育ての親）」になることを考えたことはありますか？

【Q1 特別養子縁組の認知 「内容を良く知っている」 + 「内容をある程度は知っている」回答者ベース】



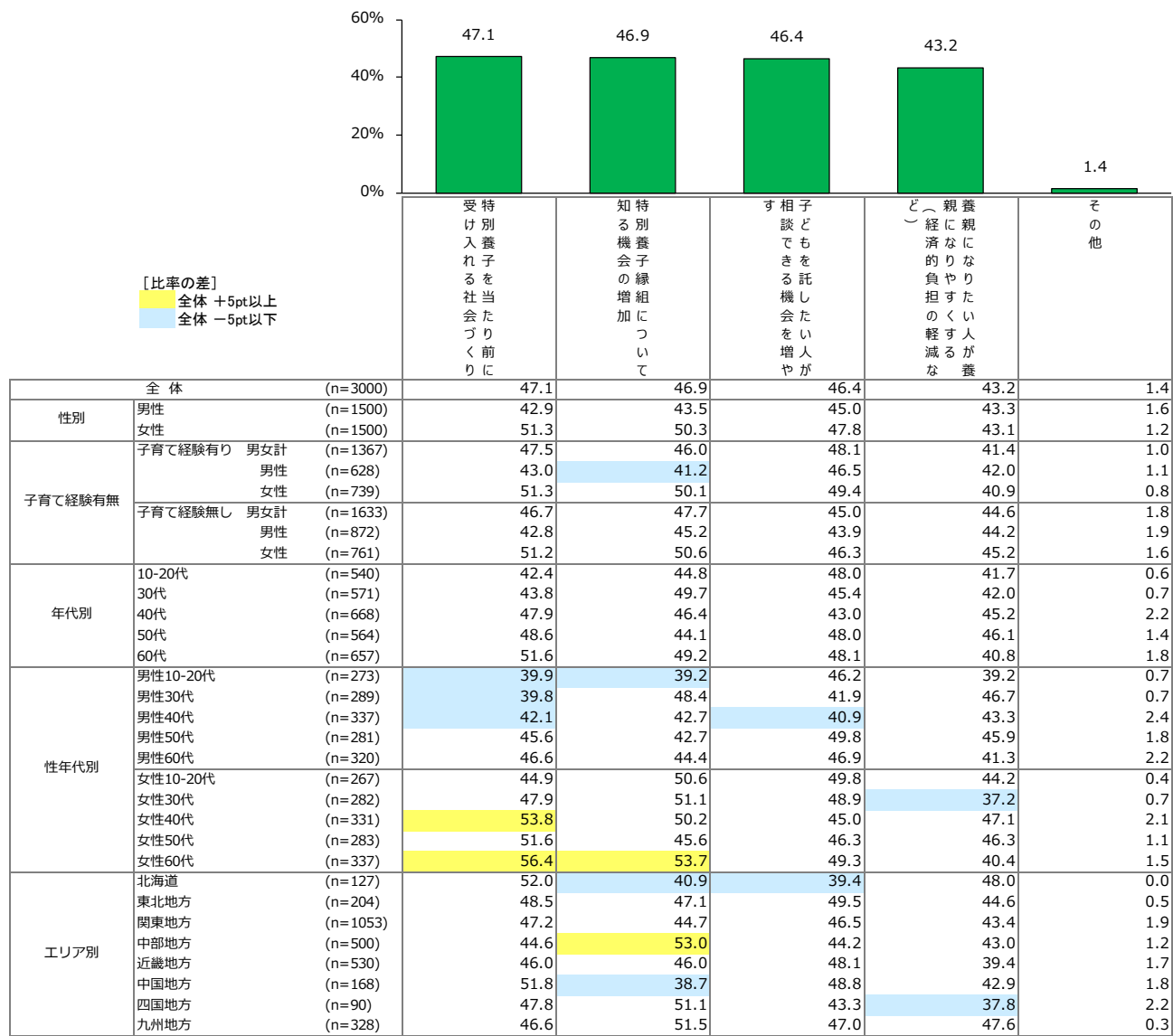
特別養子縁組制度 どうしても育てられない場合の利用意向

Q 1 1 自分や身近な人が何らかの理由でどうしても子どもを育てられない場合、特別養子縁組制度を利用してみたい（子どもを託したい）と思いますか？



特別養子縁組制度 普及のために必要なこと

Q 1 2 特別養子縁組制度がもっと普及するために必要なことは何だと思いますか？



養子の日 認知

Q13 4月4日が養子の日だということをご存知ですか？

